

飯豊連峰保全連絡会 ニュースレター

発行者：飯豊連峰保全連絡会

■平成 30 年度 飯豊連峰保全連絡会 合同保全作業の報告について

平成 30 年 9 月 8 日（土）～9 月 10 日（月）、飯豊連峰の玄山道分岐周辺で、平成 30 年度の合同保全作業が行われました。今年 6 月 1 日の飯豊連峰第 21 回会合で決定されたものです。玄山道分岐周辺の合同保全作業は、平成 21 年に続き 2 回目の作業となりました。

【実施スケジュール】

| 9 月 8 日(土) 天候 雨 | 9 月 9 日(日) 天候 雨 | 9 月 10 日(月) 天候 雨 |
|---|--|---|
| 各自登山  | 7:00 本山小屋発 7:45 玄山道分岐着 作業実施 12:30 各班長ふりかえり 講評 13:30 御西小屋着 | 各自下山  |
| 【9/9 本山小屋出発前集合写真】 | | 【作業後集合写真】 |

作業の概要としては以下のとおりです。

9 月 8 日は各自登山日とし、本山小屋に到着した人から、事前に荷上げしていた保全資材（ヤシ繊維、ヤシネット（源五郎ネット）、ヤシ土嚢、黄麻ネット）を玄山道分岐まで運搬作業を行いました。

9 月 9 日、残った資材と各自の荷物を背負い、玄山道分岐まで運搬。資材によっては、長期保管により水分を含みかなり重くなったものもありました。資材を担いだ人のザックは、別の人がダブルザックにして担ぎました。技術部会員を班長に選出し、登山道補修を 2 班、ササ運搬を 1 班にわけ（初参加の方も多く、保全作業用語、工法を説明しながら）19 名での作業となりました。

■作業報告

○登山道の補修については、ヤシ土嚢に小ダムに堆積した土砂（あらかじめ作成しておいた→毎年少しずつ行っている補修時に作成したものです）とヤシ繊維を詰めたもので洗掘された場所を補修しました。さらに、源五郎ネットの中に、ヤシ繊維、ササ、土砂を混ぜてヤシロールを作成し、登山道へ流入する水を減少させる水切り対策も行いました。

○ササについては、小国山岳会の草刈氏により事前に準備いただいていたことにより、スムーズに作業をすることが出来ました。また、使い切れなかった資材を御西小屋に搬送していただきました。

施工箇所①玄山道分岐上部 (写真上段)洗掘されていた場所へ土嚢を置いて、足場を作成した例



(写真下段) 上部にヤシロールを用いて、水切り対策を実施。さらに土嚢で登山道の穴の修復を行った例



流水

○ササについては、洗掘された場所を埋め、流速を緩和し、土砂を捕捉する資材として利用し、登山道が不明瞭な場所については、白いロープを用いて、登山道の明確化を図りました。

○登山道の裸地化してしまった部分については、黄麻ネット及びびヤシネットを用いて被覆し、その上に採取していた現地にある植物の種子の播種を行い、土砂を被せ、試験的な植生復元作業を行いました。

施工箇所②玄山道分岐中部 洗掘された場所へササを用いて、流速緩和のダムを作成した例



施工箇所③玄山道分岐下部 登山道補強と、流速緩和のダムを作成した例



■作業の様子



【ヤシロール作り】



【土嚢作り】



【黄麻ネット敷設】

作業終了後には、全員で施工箇所の確認を行い、菊池氏（山形大学農学部）と川端氏（(株)ニュージェック）による講評をいただきました。今回の合同保全作業では、担当幹事の皆さまより、当日の指揮監督、資材の運搬手配、宿泊等子細に渡ってご尽力いただきました。

当日の作業に加え、事前の資材荷上につきましても、大勢の方々にご協力いただきました。作業に関わっていただいた飯豊連峰を愛する多くの登山者や山岳関係・地域関係者の皆様に、厚く御礼申し上げます。

《当日は7団体、19名の方々の参加がありました。》

(※保全作業に関してはあらかじめ許可を取って実施しております。)



【ふりかえりの様子】

【発行者】

飯豊連峰保全連絡会（事務局）羽黒自然保護官事務所（櫻庭、澁谷）
〒997-0141 山形県鶴岡市羽黒町荒川字谷地堰 39-4
TEL：0235-62-4777、080-2801-0648 FAX：0235-62-4537
E-mail：RO-HAGURO@env. go. jp

【参考ホームページ】

- ・環境省 磐梯朝日国立公園 各種資料
（飯豊連峰保全連絡会の会則やニュースレター等）
<http://www.env.go.jp/park/bandai/data/index.html>
- ・東北地区アクティブレンジャー日記
<http://tohoku.env.go.jp/blog/>